

# 実績報告

## 看護部

- 外 来
- 2 階 病 棟
- 3 階 病 棟
- 4 階 病 棟
- 5 階 病 棟
- 南 病 棟
- 中央材料室



## 看 護 部

### 【業務内容】

- ①看護部基本理念「人々を敬い人権を擁護します」に基づいた看護の実践
  - ・医療事故防止に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。
  - ・権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。
  - ・地域連携や信頼を高める看護実践を行う。
- ②各病棟プログラムの実施（心理社会療法他）
- ③委員会の運営
- ④看護学生の実習指導
- ⑤休日・夜間の看護責任番による管理体制と救急の受け入れ
- ⑥ベッドコントロール

### 【2020年度の振り返り】

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策の対応に追われた1年間であった。救急診療体制での感染症疑い患者受け入れ病棟の決定と感染防止対策マニュアルの改正、感染プレハブ外来を新たに設置して感染対策の強化を図った。それと同時に世の中の状況も影響して入院数の低下があり、安定した入院患者数を維持すべく、病棟のWi-Fiの導入とベッドコントロール方法の見直しを行った。

また、救急病棟の入院受け入れの増加に伴い入院期間中に救急病棟のみでの治療や看護を行っていくことが難しい状況となった。急性期治療病棟の立ち上げにより入院から退院まで一定の環境で治療を行っていくことが可能となり、課題の解決にむけて動き出した。今後も様々な課題が出てくることが予測されるが、患者様や家族と一緒に地域生活の改善を目指した救急医療を求めて近づけていけるように、短期間でイノベーションできる力を持ちながら邁進していきたい。

### 【今後の展望】

- ・病棟の心理社会療法プログラムを見直し、入院治療での患者満足度の向上を図る。
- ・看護の質の向上を目指す。  
クリニカルラダーの導入と治療に即した看護援助ができる人材育成を行い、急性期・救急医療の看護をさらに展開していく。Webにより誰でも研修参加ができる環境になったため、個々でのスキルアップを図っていく。
- ・病院改革のサポートと良い看護を提供していくために、急性期・救急医療が安定して稼働できるようなベッドコントロールを行う。
- ・退院支援の強化を行う。

疾患に応じた必要となる看護を確実に提供し、患者満足度の向上と退院後の地域生活の向上を考えたチーム医療の提供と地域支援者への確実なサポートに結びつける。

文責 柴田 実子

**【実績】**

看護職員の退職者数：

	4月1日 新規採用者	正規職員 退職者数
看護師	14名(2名既卒)	3名
准看護師		0名
看護補助員		1名

看護職員の離職率：新卒看護職員 0% 常勤看護職員 0.6%

社会貢献：有田薰 新潟精神看護研究会事務局員

精神科看護講師（非常勤）：

国際メディカル専門学校 神田由香里 笹川雅彦 石本和之 本間貴行

私立加茂暁星高等学校看護学科専攻科 佐野有華

実習生受け入れ：

2020年11月9日～2021年1月22日 新潟医療福祉大学健康科学部看護学科 20名

2020年5月8日～10月27日 国際メディカル専門学校 看護学科 82名

2020年6月11日12日・7月20日21日 国際医療看護福祉大学校通信課程 12名

**【部署名】**

外来

**【職員数】**

5名（看護師4名、准看護師1名）

**【業務内容】**

新型コロナ感染症が全国的に広がったことで、外来でも感染拡大防止の観点から、来院者の検温、スクリーニングの徹底、換気、時間ごとの対面診療枠の制限と電話診療の併用など、様々な対策を講じながらコロナ禍での外来診療を継続してきた。

- ・診療の補助
- ・持効性注射の実施、点滴や検査（採血、採尿など）、その他処置の実施
- ・定期検査予定日の設定
- ・入院時のベッド調整とスクリーニング
- ・外来予約変更窓口での電話対応
- ・精神科訪問診療の補助（2020年1月～）
- ・夜間休日対応の集計
- ・救急外来、コロナ外来の管理
- ・院内歯科業務（歯科衛生士不在時、補助的に業務に就いている）

**【今後の展望】**

- ・感染対策を講じた上で、対面診療の全面再開。
- ・病棟、訪問看護、医療相談室、薬剤科、他部署多職種との情報共有と連携。
- ・未受診者の把握と、タイムリーな働きかけ。
- ・流行期にある感染症状況を常に把握し、業務にあたる。

文責 伊藤 千春

**【実績】 外来患者の動向 （上段：月合計／下限：1日平均）**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019 年 度	2,367 118	2,216 116	2,204 110	2,592 117	2,389 113	2,138 112	2,547 121	2,174 108	2,256 112	2,103 110	2,048 113	2,291 109
2020 年 度	1,929 91	1,556 86	2,159 98	2,323 110	2,105 105	2,241 112	1,988 90	1,844 97	2,066 98	1,822 95	1,781 98	2,234 97

2019年度		2020年度	
合 計	27,325	合 計	24,048
一日平均	113	一日平均	98

**【部署名】**

2階病棟

**【種別】**

精神一般

**【病床数】**

50床

**【職員数】**

30名（看護師25名 看護補助員5名）

**【業務内容】**

2階病棟は、開放病棟対象の精神疾患の患者や内科的疾患を合併している患者、廃用症候群等により寝たきり或いは歩行が困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が通常7割以上入院している病棟である。寝たきり予防のため、車椅子の乗車時間を設け、作業療法（以下OT）への参加を促し、心身共にメリハリのある日常生活を送れるよう細心の注意を払いながら、事故のないよう援助・ケアを提供している。さらに、経管栄養が必要な患者が2割を占める。個人OTとして個別の身体リハビリも実施しており、機能の向上・維持を図るなど、病棟担当OTと一緒に援助・指導している。認知症の患者もいるため回想法を実施している。急性期の内科疾患患者の輸液・酸素管理など、身体的な管理や高齢に伴う精神科薬投与量の見直し（転倒リスクを踏まえた）にも注意を払っている。又、経管栄養の管理や、終末期ケアでは患者の希望に沿った援助の中にアロマを取り入れている。

**【2020年度振り返りと今後の展望】**

## 1. 具体的に実践し評価できる病棟目標にする

病棟目標：①ダブルチェックの徹底で与薬事故防止

②患者様に寄り添い温かい看護を提供

①アイリス薬剤レポート件数 2019年度18件 2020年度13件 前年比較－5件

意識的にかかわることでレポートが減少し、生命にかかわる重大事故の発生はなかった。継続して「0」を目指し取り組んでいく。

②年度末の評価アンケートから、「できた」23%「まあまあ出来た」70%「あまり出来なかった」7%であった。できたと自信をもって評価できるよう次年度も継続していく。

## 2. 一人の人間として尊重し尊厳を保つ

接遇目標を掲げていても、業務が煩雑化し気持ちに余裕がなくなると患者の尊厳を損なってしまう援助となる傾向にあり、疎通困難な患者はそれを訴えることが難しい。疎通困難な患者が多い病棟であるため、人権を尊重し尊厳を保つことができるよう、職員教育に取り組み、同時に業務の煩雑化を改善していく。

## 3. デスカンファレンス

当院で看取りを希望する家族が年々増加傾向にあり、それに伴ってデスカンファレンスも増えている。継続して評価しながら、内容の検討を行っていく。

## 4. 看取り看護

当院で看取りを希望する家族が増えていることもあり、職員の教育の必要性を感じている。経験や知識不足から対応に不安を感じる意見や援助できなかった後悔なども話されることがある。今後もご本人のご意思や、ご家族の意向を尊重しながら、最期まで一人ひとりの尊い命に寄り添える病棟にしていきたい。

## 5. 2交代勤務の継続と3交代勤務の選択

働き方改革として2交代勤務を導入をし、生活スタイルや体調によって3交代も選択できるようにしていることで、ワークライフバランスの観点からも評価できている。

## 6. 配薬カートの導入

与薬準備業務の短縮化はできていると思うが、与薬の安全性を確保するためのマニュアルを遵守したカート使用の徹底ができていないこともあります。時折、飲ませ忘れなどの発生がある。業務の煩雑化など様々な要因がその都度話し合われており、今後も導入の評価が上がる配薬カートの使用マニュアルについて検討していく。

## 7. 口腔ケアへの取り組み

今年度は誤嚥性肺炎の発生が多く、誤嚥性肺炎防止のためにも口腔ケアに力を入れ継続していく。来年度は、そのための業務の見直しや職員教育に取り組んでいく。

今後、実現化に向けて、病棟職員全員で課題を共有し目標に向かって取り組み、看護の質を向上し、高齢者内科病棟としての役割を果たしていきたい。

文責 神田由香里

## 【実績】

## 1. 特殊疾患入院施設管理加算対象率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
70.7%	70.1%	70.5%	71.7%	70.7%	70.8%	70.9%	70.4%	71.1%	70.1%	70.2%	70.9%

## 2. 2階病棟患者個別身体リハビリテーション状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入平均(人)	1.6	1.4	1.6	1.5	1.0	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2	1.1	1.0
介入合計(回)	64	65	74	66	49	57	61	58	59	61	57	51

## 3. 回想法実施状況 1クール8回 毎週火曜日14時～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加人数	12名	6名	16名	16名	10名	16名	12名	12名	12名	11名	12名	14名

**【部署名】**

3階病棟

**【種別】**

精神一般 ⇒ 2020年11月～急性期治療病棟

**【病床数】**

59床

**【職員数】**

36名（看護師28名 看護補助員6名 精神保健福祉士2名）

**【業務内容】**

当病棟は、長期入院者及び難治性患者の退院支援と、精神科救急病棟をはじめ、他病棟の後方支援病棟としての役割を担っている。加えて、5月からクロザピン運用開始、11月から急性期治療病棟として稼働を開始した。

また、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、感染症疑い患者様の受け入れ病棟としての役割も担っている。

病棟の特徴として、急性期症状を呈した患者様と慢性症状を呈し入院が長期化している患者様が混在している。そのような状況ではあるが、個々の患者様の病状に合わせてきめ細かな観察と、生活スキルの向上、機能回復及び自立に向けた支援を行っている。

看護体制は、プライマリーナーシングと機能別看護であり、入院から退院まで一貫して担当看護師と担当精神保健福祉士が関わっている。入院時から退院後の生活を見据えて、患者様の病状と治療経過の評価・患者様ご家族様の面談を実施している。患者様ならびにご家族様の希望が実現できるよう、多職種で関わり必要な支援体制の提案を行っている。  
退院後の支援についても、社会資源の情報提供や、地域で関わる関係者との面談やカンファレンスも実施し、患者様が安心してその人らしい生活が送れるよう、関係者で支援体制作りをしている。

**【今後の展望】**

今年度の病棟目標に、『私たちは個別性に応じた安全な看護を実践します』を掲げ個別性、その人らしく、かつ安心して過ごせるという観点で看護実践を行ってきた。

朝のカンファレンスで積極的に状態変化のある患者様のカンファレンスを実施し、早期に安全な看護を提供することができた。しかし一方では、認知症や高齢で転倒リスクが高い患者様が増えたことで転倒事例が多く上がってきた。患者様の状態に合わせた環境調整、ご家族様やご本人様への説明、転倒時の外傷が最小限になるような対応が今後も求められるを感じる。今年度の評価を踏まえ、来年度は「私たちは安全で安楽な治療環境を提供します」を病棟目標に掲げた。目標達成に向け、スタッフ個々が持つ力を十分発揮し取り組んでいきたい。

クロザピン運用に関しては、他院で導入した患者様の受け入れから開始し、11月から当院でも新規導入を開始した。クロザピンコアメンバーを中心にデータの管理、症状の把握を行なながら導入患者数の増加につなげたい。

心理教育に関しては、心理教育のスタッフを選定し、心理教育インストラクターの指導のもと研修を行った。新型コロナウイルス感染症対策で他病棟との往来が制限され、心理教育が行える十分な環境が整わず、また対象となる患者様が少なくグループでのプログラムの開催には至らなかった。しかし人数は少なかったが、個別に心理教育を行うことができた。必要な時に必要な心理教育ができるようスキルの向上が求められると感じる。

患者様に安全な医療サービスを提供することは、医療の最も基本的な要件の一つであるため、職員の意識啓発も進めながら、目標達成に向け看護を提供していきたい。

来年度は、病棟の目標が達成できるよう援助し、入院している全ての患者様の希望する生活実現のため、以下の内容に重点を置き、継続して支援を進めていく。

- ・プライマリーナースとしての責任を持ち、積極的にご家族様や支援者と情報交換を行いながら看護を実践する。
- ・急性期治療病棟の基準を維持し、機能を十分に発揮する。
- ・チームとして継続した看護を実践する。
- ・患者様やご家族様が安心して入院出来る、安全で清潔な環境づくりに努める。
- ・行動制限の早期解除に向けた評価と取り組みを行う。
- ・地域における支援者との関係作りや社会資源の活用とサポートを行う。
- ・心理教育を実施し病気に対する正しい知識を提供する。
- ・クロザビン導入患者様の観察を十分に行い、症状の改善の援助をする。
- ・感染症疑いの患者様のスムーズな受け入れと、確実な感染予防対策を行う。

文責 畠山 恵子

### 【実績】

#### 1. 入退院転出入患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院患者数 (新規対象)	8 (3)	22 (17)	8 (5)	24 (19)	10 (9)	16 (12)	11 (10)	11 (7)	12 (11)	11 (8)	20 (15)	14 (9)	167 (125)
退院患者数	4	11	15	14	13	14	9	13	13	12	9	13	140
転入患者数	3	8	8	1	0	2	0	4	2	5	3	3	39
転出患者数	4	12	8	6	6	3	2	4	2	5	2	7	61
1日平均患者数	46.5	53.5	55.2	53.3	50.2	50.2	46.2	46.6	41.6	42.1	51.5	55.6	49.3

#### 2. 新規入院比率と退院率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規入院比率 (%)		21.06	42.15	41.74	52.24	51.22	48.2	47.44	48.03	48.07	57.45	54.09
退院率 (%)	33.3	35.29	40.0	78.95	77.78	80.0	57.14	85.71	63.64	88.39	66.7	77.78

**【部署名】**

4階病棟

**【種別】**

精神一般

**【病床数】**

58床

**【職員数】**

31名（看護師26名 看護補助員5名）

**【業務内容】**

比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者の他、救急病棟や急性期治療病棟の後方支援病棟として、症状の安定した患者や退院調整が必要な患者を受け入れている。

慢性期の長期入院患者には難治性患者も含まれ、より安全に配慮した環境とケアの提供が求められる。また患者の高齢化も進んでおり、日常のケアや退院支援が適切に行われるよう適宜見直し、チームで情報共有した関わりが重要と考える。

患者の特性としては、常時3割程の認知症患者がいることに加え、長期入院患者の高齢化により転倒や窒息などのリスクが高く、骨折や肺炎など身体的な治療が必要なケースも多い。患者との関わりを密に行い、細かな変化に対応できる看護ケアが提供できるよう心がけている。

**【今後の展望】**

精神一般病棟としては2階・4階・5階病棟と連携して病床運用をしているため、長期入院者や難治性患者の病状悪化に対応する隔離室の運用が課題となる。

病院全体の流動的なベッドコントロールに対応できるよう、適切な空床管理が望まれる。

また、後方支援病棟として限られた期間内での退院支援や、難治性患者のクロザリル置換など、看護に求められる支援は多岐にわたるため、チーム内での情報共有や多職種との連携を強化していく必要がある。

入院患者の高齢化や、認知機能の低下により、危険予測したうえで日常生活面に十分配慮したケアが求められる。

感染予防対策により、家族や支援者との関わりは大きく減少した。看護スタッフから適切に情報発信をし、地域と継続した関わりが持てるよう支援したい。

文責 佐藤 敦子

**【実績】****入退院転出入患者数**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院患者数	2	2	0	1	4	2	2	3	5	2	0	2	25
退院患者数	5	2	6	4	2	3	3	3	4	3	2	5	42
転入患者数	5	12	10	6	3	5	5	2	5	7	6	20	86
転出患者数	6	7	6	4	2	6	4	1	6	6	3	18	70
1日平均患者数	53.6	56.5	57.4	56.9	56.4	56.7	54.1	56.6	55.9	54.7	56.9	56.8	56.0

**【部署名】**

5階病棟

**【種別】**

精神一般

**【病床数】**

58床

**【職員数】**

31名（看護師28名 準看護師2名 看護補助員1名）

**【業務内容】**

開放病棟から閉鎖病棟へ再編され、患者層もうつ病や、思春期精神疾患など緊急避難的な休息目的の入院が減少し、慢性期の統合失調症患者や認知症の患者が増えてきており、介護度が上がってきている。そのため、転倒や転落などの事故防止も重要となる。

心理教育プログラムでは、認知症患者対象の回想法とうつ病やBPDなどを対象としたWRAPを実施。

高齢者や認知症患者に対して、他職種と連携し家族相談やケアマネや他施設との調整、退院後の帰結先やサービス利用などスムーズな退院を目指すことで、救急病棟や急性期治療病棟の後方支援病棟としての役割を果たしていく必要がある。

**【今後の展望】**

- ・病棟環境の整備と事故防止
- ・身体機能の維持向上による転倒リスク軽減
- ・誤嚥性肺炎防止の口腔ケアの実施
- ・急変時の対応
- ・患者対応時の接遇意識の向上
- ・おもに高齢者による転倒・転落による事故の防止
- ・クロザピン治療患者への観察と援助
- ・行動制限患者への早期解除に向けた評価と取り組み

文責 布川征一郎

**【実績】****入退院転出入患者数**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院患者数	7	7	2	1	0	3	3	1	0	4	4	1	33
退院患者数	12	7	3	7	2	6	5	6	3	5	3	4	63
転入患者数	5	8	5	7	5	4	5	6	6	3	4	22	80
転出患者数	2	5	4	2	1	3	3	3	3	2	3	19	50
1日平均患者数	56.3	57.0	57.8	57.5	57.7	57.3	55.7	55.1	54.8	55.4	56.1	56.7	56.5

**【部署名】**

南病棟

**【種別】**

精神科救急病棟

**【病床数】**

60床（1階28床・2階32床）

**【職員数】**

43名（看護師40名 精神保健福祉士3名）

**【業務内容】**

南病棟は主に精神疾患の急性症状を呈する患者の症状改善と安全に務め、集中的な治療と看護を提供している。

患者に安心して療養できる治療環境を提供するため一般床49室はすべて個室、他に特別室2室、保護室9室、集中的な身体面の治療とケアが行えるPICUを設置している。

個別受け持ち制+機能別看護で入院時から担当看護師と精神保健福祉士が関わっている。本人や家族に対して必要な情報提供や支援体制の提案、心理社会療法プログラムの選定（病状自己管理モジュールSST・心理教育・認知行動療法・回想法・作業療法）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネート役として、患者が担当スタッフと話し合いながら主体的に治療を進めている。その他臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護について深い学びができるよう関わっている。

**【今後の展望】**

- ・措置入院者退院支援計画の策定を実施し行政や関係機関との連携を継続して行う。
- ・精神科救急病棟入院料算定要件を維持する。
- ・急性期治療病棟と連動でき、安定した病棟運営から病棟内の力を集結した看護援助や支援の強化を行う。
- ・個別性を重視したバリエーションがある看護の提供を目指し、安心安全な入院環境の提供と患者満足度向上を促進する。

**【今年度の振り返り】**

地域での精神科救急病棟としての役割を果たすために、退院調整シートを活用することで日々の入院受け入れ枠が確保しやすい状態とし受け入れの整備を行った。

担当による、患者個別のコーディネートと院内外の他職種・関係機関との連携を強化するために、退院調整パス用紙を使用した関わりで、病棟が一丸となり患者様の満足度の向上を図った。救急医療を行っている自覚を持ちながら支援ができる人材育成を継続していく。また、病棟内の感染対策の強化と高齢者の転倒防止や与薬のエラーなどのインシデントの改善に努め、リスクのある患者様への配慮を怠らず、安心安全な入院環境が提供できるよう丁寧な看護を実践して行く。

文責 柴田 実子

**【実績】**
**1. 病棟利用状況**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1日平均患者数	48.2	51.4	58.5	57.5	54.7	54.2	57.3	54.4	52.6	51.7	55.9	57.6	54.5
病床利用率	80.3	85.6	97.6	95.9	91.2	90.3	95.5	90.7	87.6	86.2	93.2	96	90.8
入院患者数	41	31	40	35	34	33	32	29	29	35	37	36	412
退院患者数	24	30	37	28	30	37	21	29	28	31	22	28	345
平均在院日数	44.5	52.2	45.6	56.6	53	46.4	67.1	56.3	57.2	48.6	53.1	55.8	53.0

**2. 新規入院患者入院率と退院率 (%)**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	97.3	98.8	99.5	97.7	95.6	96.4	97.0	97.7	99.2	99.2	98.1	98.3
退院率	78.3	71.4	73.3	69.2	88.0	92.1	93.6	90.6	78.1	77.8	84.0	82.1

**3. 各種プログラム参加状況（月あたりの平均参加者数と年間延べ参加者数）**

	平均参加者（月）	延べ参加者数
S S T	16.5	199
心理教育	43.5	523
回想法	24.3	292
C B T	12.6	151

心理教育（統合失調症プログラム）

2021. 5月～開始

18名参加。4回×6カール 計24回実施

**【部署名】**

中央材料室

**【職員数】**

3名（検査科スタッフが兼務）

**【業務内容】**

- ・各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者様のオムツ等）の払出し。
- ・必要物品の担当業者への発注と納品された物品の検品。
- ・全病棟から受け取っている医療器材の高圧蒸気滅菌による滅菌消毒。
- ・患者様の介護用品（車椅子、保護帽、シルバーカー等）の受注、及び担当業者への発注と用品の納品。
- ・院内に設置されているA E Dの点検と管理。
- ・依頼のあった医療機器及び材料等の研修会についてメーカー担当者と調整。
- ・院内で使用している物品の点検補修。

**【今後の展望】**

- ・常に感染症に対する新たな情報を関係者と共有し、医療材料・衛生材料を安定供給することで診療現場での混乱を未然に防げるよう努める。
- ・年々、精神及び身体的に多種多様な病態の方が増え、必要となる医療材料の種類も増えていると感じる。引き続き医療材料に関する新しい情報を収集しより良い物品を提供していく。
- ・患者様が介護用品等を購入する際には、各部署スタッフと一緒に一人ひとりに適したもの提供して、日常生活がスムーズに過ごせるように手助けをしていく。

文責 村木 憲一

**【実績】**

2020年12月8,15日	2階病棟にて全病棟職員を対象にモニター使用法について講義 (株)日本光電担当者に依頼)
---------------	--